

令和6年度 有明高等学校 学校評価報告書

有明高等学校
校長 井手秀孝

本校では、生徒の学校生活をより充実したものにするとともに、地域に愛される学校づくりを推進している。これらを実現するための取り組みの一環として、生徒、保護者、そして教職員対象の学校評価アンケートを実施し、その結果をもとに教職員による組織的な自己評価を行い、今後の改善点について考察した。本報告書では以下の項目に関して述べる。また、本報告書を設置者に提出し、設置者所見を添付する。

1. 本年度の重点目標
2. 評価項目の設定
3. アンケート項目と結果および自己評価
4. 総合評価
5. 次年度への課題、改善方策
6. 次年度の重点目標

1. 本年度の重点目標

各教員の取り組むべき方向性を明確にするともに、日々の指導に役立てるようになるために、具体的かつ明確な重点目標を設定した。

[重点目標1]

基本的な生活習慣および生活態度の向上

[重点目標2]

学力向上に向けた授業の「質」の向上

[重点目標3]

生徒の自発的な学習への意識の向上

[重点目標4]

健康で充実した学校生活のための環境づくり

[重点目標5]

生徒および保護者が望む進路保障の取り組み

2. 評価項目の設定

重点目標の達成のための具体的な取組等を評価するために以下の項目を設定した。以下に教務、生徒指導、進路指導ごとの項目を示す。

(1) 教科指導に関して(関連する重点目標1、2、3)

- ・授業時間の厳守
- ・授業の展開と指導の工夫

- ・生徒の発達段階に即した教科指導
- ・生徒の自発的な学習活動
- ・図書館の計画的利用や読書活動の推進
- ・教科指導に関する教職員間の連携

(2) 生徒指導に関して(関連する重点目標1、4)

- ・学校全体で生徒指導に取り組む体制づくり
- ・生徒の問題行動等への対応
(保護者への対応を含む)
- ・生徒が学校行事や部活動を通じて、自ら考え、自主・自律的に行動できるとともに、自らの言動に責任をもつことができる指導
- ・生徒の交通安全への意識の向上を図るための取り組み

(3) 進路指導に関して(関連する重点目標5)

- ・資格取得や検定試験に取り組む体制の整備
- ・生徒の能力・適性等を発見するための工夫
- ・職場体験活動や就業体験の適切な実施

3. アンケート項目と結果および自己評価

令和6年度の学校評価アンケートを令和7年5月に実施したため、アンケート対象を2、3年生の生徒およびその保護者、そして教職員とした(対象人数は、生徒283名、保護者283名、教職員42名)。保護者については、生徒の兄弟姉妹の存在

は考慮せず、生徒数と同数とした。

アンケートの回答数は、生徒283名、保護者256名、教職員42名であり、回収率は、生徒100%、保護者90.5%、教職員100%であった。

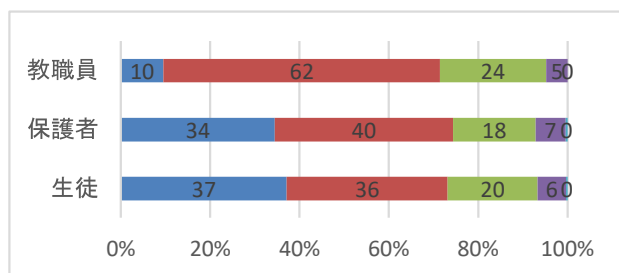
アンケート結果の評価方法としては、回答選択肢において、「そう思う」と「ややそう思う」を肯定的評価とし、肯定的評価が70%を超えることを目標とした。

グラフにおける凡例は、表の左から順に■そう思う、■ややそう思う、■どちらでもない、■あまりそう思わない、■そう思わない、を表し、表中の数値はそれぞれの割合をパーセント表示した。

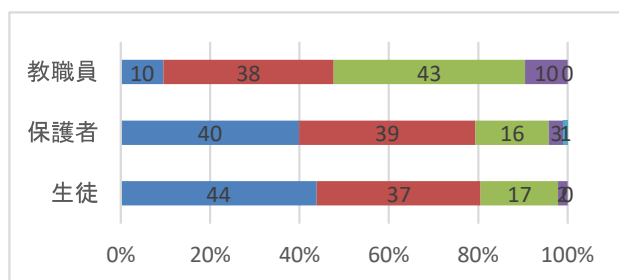
[重点目標1]

基本的な生活習慣および生活態度の向上

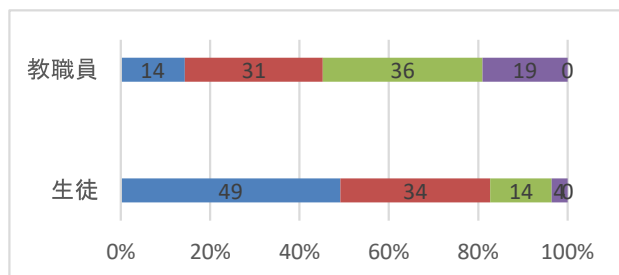
Q1. 生徒(あなた)にとって、学校生活は全般的に満足であると思いますか。



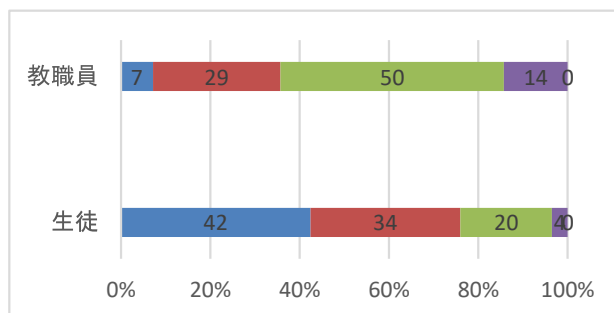
Q2. 生徒(あなた)は、あいさつをしっかりとっていると思いますか。



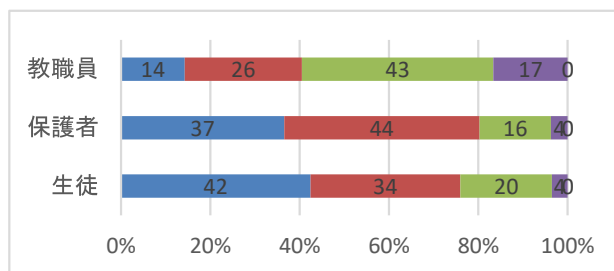
Q3. 生徒(あなた)は、掃除にしっかり取り組んでいると思いますか。



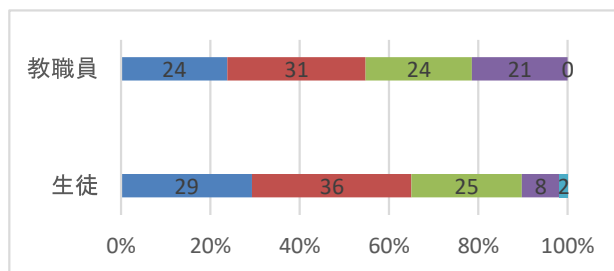
Q4. 生徒(あなた)は、有高生としての自覚をもって生活していると思いますか。



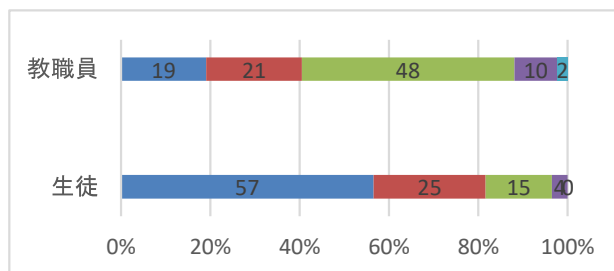
Q5. 生徒(あなた)は、目標をもって日々の学校生活をすごしていると思いますか。



Q6. 生徒(あなた)は、学校の施設・設備は学習環境の面で充実していると思いますか。



Q7. 生徒(あなた)は、8時30分登校や授業開始の時間を守っていると思いますか。



([重点目標1]のアンケート結果に対する自己評価)

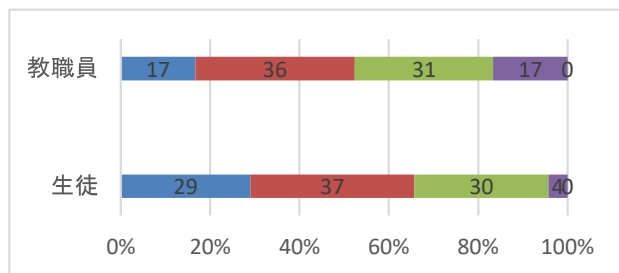
ほとんどの質問において生徒や保護者から目標とする70%以上の肯定的評価を得た。しかし、それに比べると教員の評価は低くなっており、この点については、日々の指導が十分ではない(指導の余地がある)と考えられ、意識の向上と実践が急務である。

「Q6. 学校の設備・学習環境」は、他の項目よりも肯定的評価が低く、特に教職員の「あまりそう思わない」の回答率が高い。教科指導や部活動指導に必要な設備や環境について、ヒアリング等の実施を検討したい。

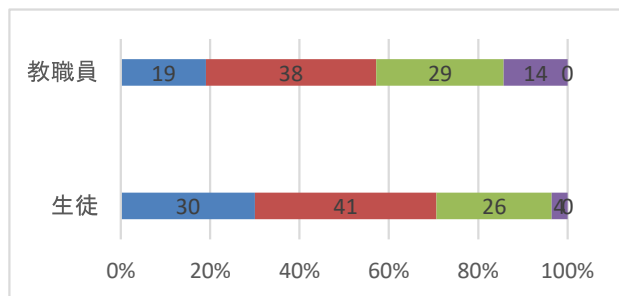
[重点目標2]

学力向上に向けた授業の「質」の向上

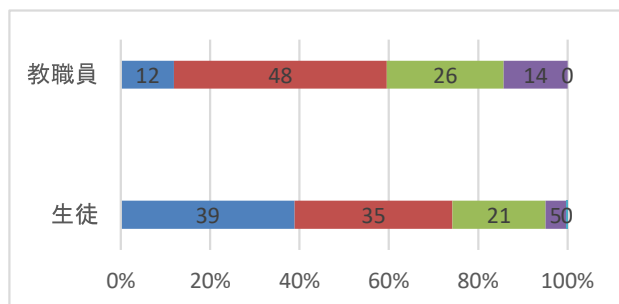
Q8. 先生の授業の進め方には、工夫がみられると思いますか。



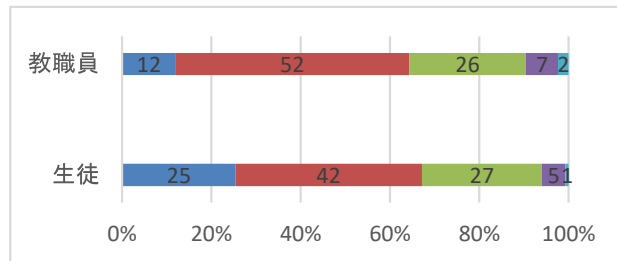
Q9. 先生は、学力向上のために学習内容を熱心に教えていると思いますか。



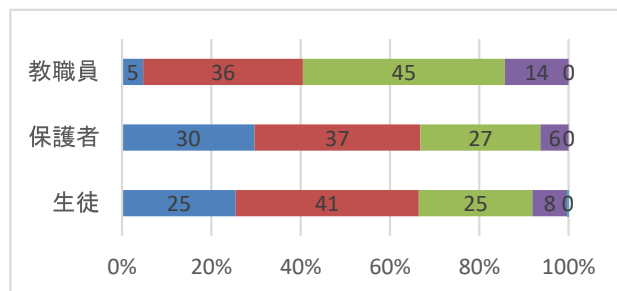
Q10. 授業内容は、生徒(あなた)の進学や就職を考えたうえで満足できるものですか。



Q11. 授業は、わかりやすく、理解できていると思いますか。



Q12. 生徒(あなた)は、授業を通して、学力が向上していると思いますか。



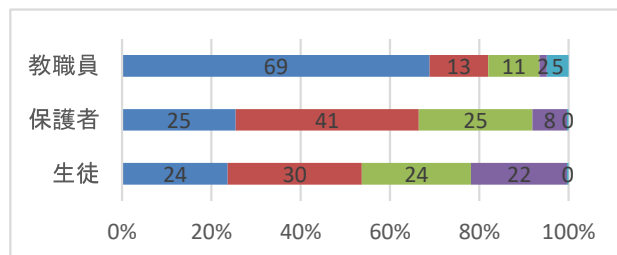
([重点目標2]のアンケート結果に対する自己評価)

経年比較をすると、「Q8. 授業への工夫」と「Q9. 学力向上に向けた熱心な指導」の教職員の自身の教科指導への肯定的評価は高くなりつつあるが、「Q12. 学力向上の実感」の結果から、教職員は生徒の学力向上を実感していないことがわかる。定期考査や年2回の学習支援アプリを使った到達即した度テストで生徒自身のつまずきの把握やクラス集団の習熟度の分析などを行い、生徒の進路や学科目標に即した、より効果的な授業展開の実践が求められる。

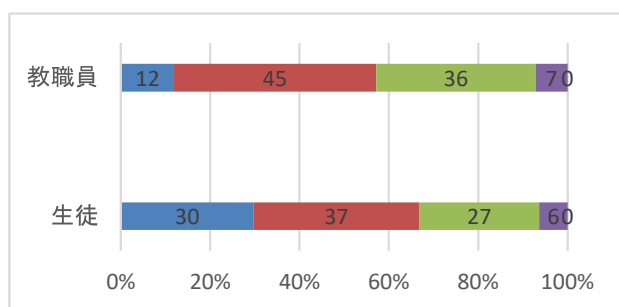
[重点目標3]

生徒の自発的学習への意識の向上

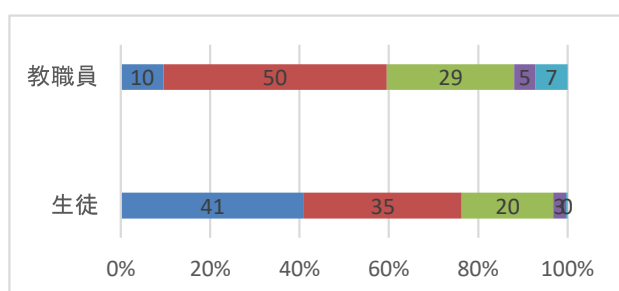
Q13. 生徒(あなた)は、家庭学習をしていると思いますか。



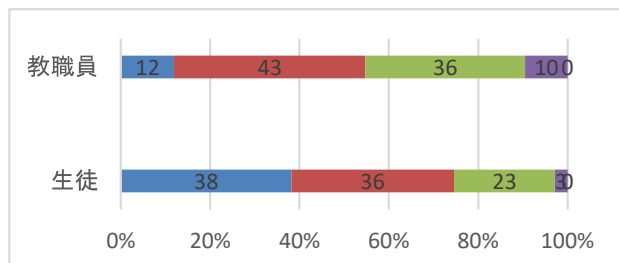
Q14. 生徒(あなた)は授業に集中できる環境だと思いますか。



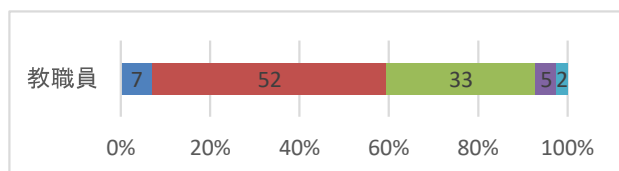
Q15. 生徒(あなた)は、朝読書を有意義に活用していると思いますか。



Q16. 生徒(あなた)は、授業に積極的に取り組んでいると思いますか。



Q17. 授業の円滑な進行のために、教職員間の連携が図られていると思いますか。



([重点目標3]のアンケート結果に対する自己評価)

生徒の授業への積極性はあり、学習に集中できる環境であるものの、家庭学習の定着ができていない。「Q13. 家庭学習の取り組み」は例年、評価が低い項目であるが、学習支援アプリやICTを活用した教職員の積極的な働きかけを行ったことで、

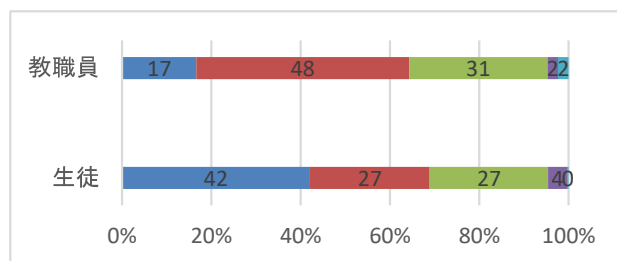
教職員の肯定的評価の上昇に繋がったのではない。ただ、生徒自身の評価は低いため、一方的な取り組みになっていないか、検証の必要がある。

「Q15. 朝読書の取り組み」については、R6年度からの取り組みではあるが、クラスにより差があり、定着したとは言えない状況である。毎月発行される「図書館だより」には、新刊の紹介だけでなく、クラスごとの図書貸し出し冊数も掲載しており、生徒の意欲が喚起されることを期待したい。

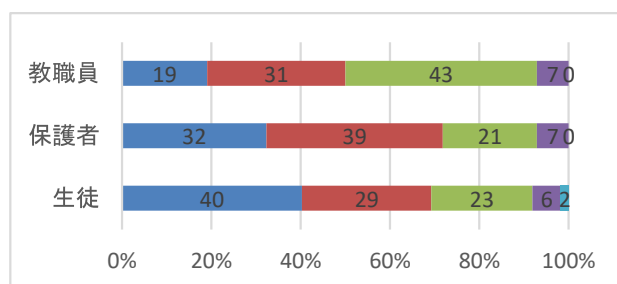
[重点目標4]

健康で充実した学校生活のための環境づくり

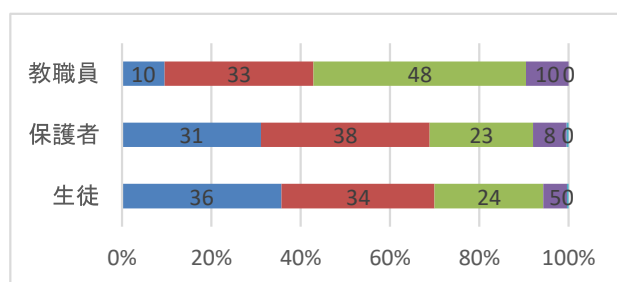
Q18. 生徒(あなた)は、歓迎遠足や体育大会等の学校行事に積極的に取り組んでいると思いますか。



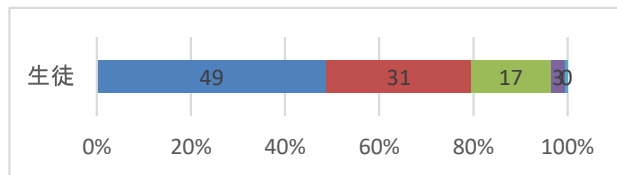
Q19. 生徒(あなた)は、部活動に熱心に取り組んでいると思いますか。



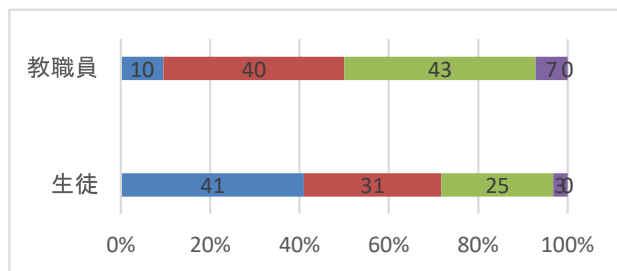
Q20. 先生は、生徒(あなた)の悩みや相談に親身に応じていると思いますか。



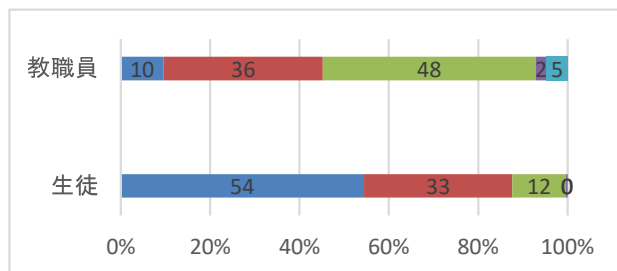
Q21. あなたは、本校の生徒と良い交友関係を築いていると思いますか。



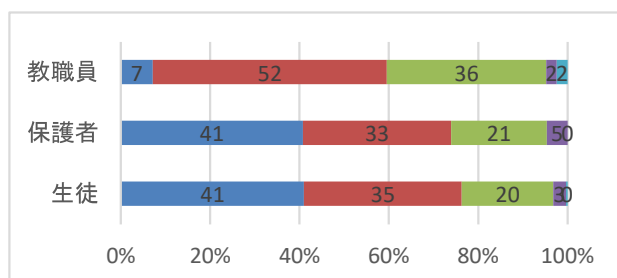
Q22. 学校が行っている交通指導(自転車、バイク指導も含む)は、適切であると思いますか。



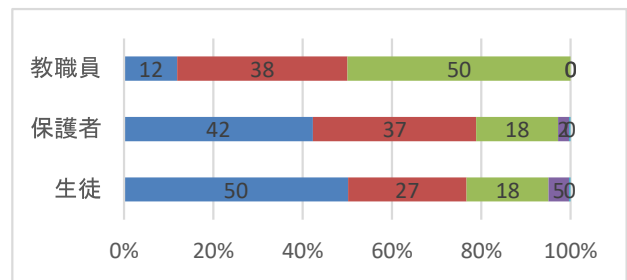
Q23. 生徒(あなた)は、学校生活においてモラルやルールを守っていると思いますか。



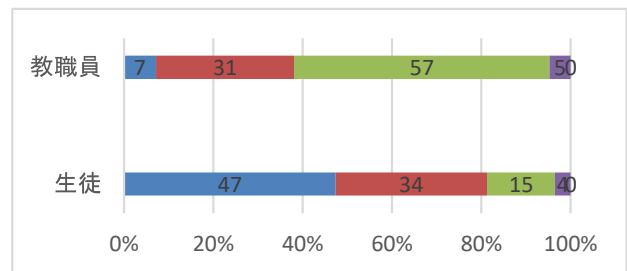
Q24. 生徒(あなた)は、言葉づかいが適切であると思いますか。



Q25. 生徒(あなた)は、服装・頭髪をきちんとしていると思いますか。



Q26. 生徒(あなた)は施設や設備を丁寧に使用していると思いますか。



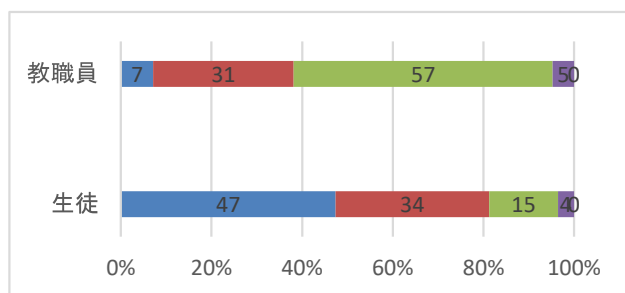
(〔重点目標4〕)のアンケート結果に対する自己評価)

ほぼすべての項目において教職員の肯定的評価が目標値を達成することができていない。生徒指導に対する謙虚な評価ととらえることもできるが、指導の目的や方法などの見直しが必要と思われる。「Q20.生徒への対応」について、教職員は十分に生徒と向き合うことができていないと感じており、限られた時間の中での生徒との関係構築について業務の見直しも含めて考えていく必要がある。また、「Q22.適切な交通指導」、「Q23.ルール等の順守」への教職員の肯定的評価が著しく低いことは、生徒指導力が不十分であることを自覚していることがわかる。組織としての生徒指導ができるよう、学校全体で共通理解を図り、実践が必要である。これらの結果を深刻に捉え、統一した生徒指導の実現に努めなければならない。

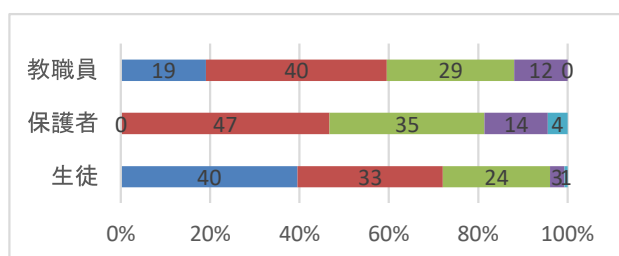
[重点目標5]

生徒および保護者が望む進路保障の取り組み

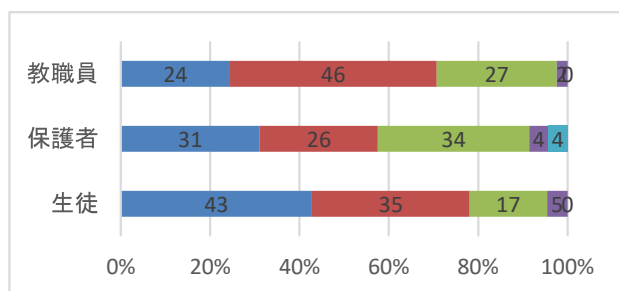
Q27. 生徒(あなた)は、進路実現に向けて、資格取得や検定試験に取り組んでいると思いますか。



Q28. 学校は、生徒(あなた)へ進路についての十分な情報を知らせていると思いますか。



Q29. 学校は、進路についての指導・面談を一人ひとり丁寧に行っていると思いますか。



(〔重点目標5〕)のアンケート結果に対する自己評価)

肯定的評価は決して高くなく、生徒、保護者とも早期から積極的な進路指導を望んでいると考えられる。また、本校では1年次より学科横断的にキャリア教育や進路ガイダンスに取り組んでいるが、それぞれの学科の特長や専門性に特化したロールモデルの設定などに今よりもさらに注力していくことで資格取得や検定への挑戦につながることが考えられる。

生徒と保護者への情報提供は、今年度より生徒のICT端末での求人票の閲覧など新たな試みも

始めており、利便性の向上を図りながら、効率的な進路指導を進めている。

4. 総合評価

今回のアンケートは、1、2年生の生徒とその保護者および教職員を対象に行った。3年生の回答がなく、3年間の教育活動や生徒指導、学校生活への総合評価を得られなかったことは非常に残念であった。特に進路指導については、その取り組みと成果についての今回の評価は十分なものとはならなかった。アンケートの実施時期と方法については、回答内容が回答者の実感に最も近く、かつ回答率の向上が実現できる時機に設定する必要がある。

教科指導や生徒指導において、教職員の評価と生徒の評価に大きな差が見られる項目があり、その多くは、教職員の肯定的評価が著しく低かった。教職員自身の謙虚な評価と捉えることはできるが、教科指導、生徒指導、進路指導においての工夫と改善の余地が大いにあり、多くの教職員が現状に満足してはいないということがわかる。生徒の学校生活のさらなる充実に向けて、今回の評価をすべての教職員が真摯に受け止め、日々の教育活動に勤しむ必要がある。

5. 次年度への課題、改善方策

教科指導

(課題)

- ・教職員の教科指導と生徒の学力向上
- ・朝読書の定着

(改善方策)

- ・授業公開期間の活性化と教科会議の充実
- ・学習支援アプリやICTなどのさらなる活用
- ・生徒の習熟度や学習活動の理解と分析
- ・図書館利用の啓発

生徒指導

(課題)

- ・教職員の連携と共通理解の深化
- ・生徒心得、交通ルールの指導の徹底
- ・教職員が生徒と向き合う時間と機会の確保

(改善方策)

- ・生徒心得、交通ルールの見直しと理解
- ・統一した指導のためのガイドラインの共有
- ・日常業務の見直しと情報共有の強化

進路指導

(課題)

- ・生徒、保護者への情報提供
- ・学科の特性を活かした進路指導

(改善方策)

- ・ICT端末を活用した情報の提供
- ・検定・資格取得に向けた対策の強化

6. 次年度の重点目標

次年度に向けては、基本方針は本年度と変えることなく取り組みを強化していくこととする。しかし、今回、肯定的評価が低い結果となった教職員間の連携については重点目標として掲げ、生徒指導だけではなく、教科指導や進路指導、生徒の学校生活全般においても念頭に置き、教育活動に努めていくこととする。

[重点目標1]

基本的な生活習慣および生活態度の向上

[重点目標2]

学力向上に向けた授業の「質」の向上

[重点目標3]

生徒の自発的学習への意識の向上

[重点目標4]

健康で充実した学校生活のための環境づくり

[重点目標5]

生徒および保護者が望む進路保障の取り組み

[重点目標6]

教職員間および教職員と保護者間の連携

設置者所見

本校は今年、令和 7 年で創立 64 周年を迎えました。

本校の教育理念は「知育・徳育・体育」の調和のとれた教育で、社会に貢献する人物を育成することです。本校には学科として、普通科、看護科、福祉科、そして機械科、電気情報科の五つを設置して、中学生の皆さんの幅広い進路希望に対応しています。また進学率、就職率は昨年度も 100%を達成していますし、普通科特進コースでは 3 年連続で国立大学に現役で合格しています。

近年、少子化の進行に伴う若年人口の減少が注目される中、本校は自校の特色を活かし、今後も選ばれ続ける学校でなければならないと考えています。そのためには、現在本校が抱える課題を明らかにし、その改善・充実に取り組むことが不可欠です。そうした取組を積み重ねることが、こどもたち一人ひとりの成長に繋がり、ひいては学校全体の発展に繋がるものと確信しています。

その目的のために、学校評価アンケートを継続実施しています。令和6年度のアンケートの結果を踏まえて、その分析と今後の課題を明らかにします。

まず基本的な生活習慣および生活態度の向上では、ほとんどの項目で生徒と保護者では肯定的な回答が多く、学校生活については積極的に前向きに取り組んでくれているようです。実際、本校生徒は素直で明るく、学校生活を楽しそうに送っているように見えます。ただ、教職員では肯定的評価は高くはありませんでした。生徒への期待値が高いのかもしれませんが。

次に学力向上に向けた授業の質の向上では、教員の授業内容や授業に臨む姿勢に対する質問に対して、肯定的な回答の方が高い結果でしたが、「授業は分かりやすいですか」とか「学力が向上しているか」の質問への肯定的な回答は、十分高いとは言えませんでした。教員の授業に臨む姿勢を授業のわかりやすさにつなげたいところです。教員が興味・関心を引く授業をすることによって、生徒も知らず知らずのうちに授業にのめり込み、それが学力向上につながります。生徒たちへの学習意欲を喚起できるような興味深い授業を展開していきたいと思います。

生徒の自発的学習の意識の向上では「家庭学習をしている」の回答は学校が期待している数字を満たしていませんでした。課題を出されればするが、そうでなければ積極的にはしないということが推察されます。興味がわく授業、理解できる授業があれば、「もっと知りたい」「理解できるからもっとこの教科の成績を上げたい」という気持ちになり、家庭学習に取り組み意欲がわくと思います。生徒たちの知的好奇心をくすぐる授業を展開していくことが必要と思われます。ただ、良い授業は教員だけがいくら良い取り組みをしても成立するものではなく、生徒も授業に前向きな気持ちで臨むことで成立するものです。教師の働きかけにより、生徒が授業に前向きに取り組む土壌を作り上げていきたいと思います。

健康で充実した学校生活のための環境づくりでは、積極的に前向きに学校生活に取

り組んでくれている生徒の割合が多いようです。実際、本校生徒は素直で明るく、学校生活を楽しそうに送っているように見えます。その様子は教員として安心を感じる一方で、まだまだ本来持っている能力を発揮していないようにも感じます。その物足りなさを払拭するには、学校・教員サイドの課題として生徒に適切な負荷を与え、生徒の潜在能力を引き出す教育を行う必要性を感じます。また、「モラルやルールを守っているか」の質問に対しては、肯定的な数字が80%以上となっています。これを見ると生徒たちの中にルールは守らなければいけないという意識はあるようです。しかし、本当のマナーを守ろうという意識まで高められているかということ、彼らの日頃の行動を見ていると疑問符もつきます。周りに流されず、自分の価値観・判断力をしっかり磨いていてもらいたいと思います。

進路保障関係では、生徒、保護者、教職員により、昨年度よりも大きく改善したり、逆に肯定的評価が下がったりと、判断しづらい結果となりました。特に生徒と保護者のどちらからも高い肯定的評価を得られるように情報発信、指導などを改善していく必要があります。

分析結果を総括すると、まだまだ取り組むべき課題が多いことが分かります。特に学校運営で最も重要な授業の改善に向けての取り組みが必要です。理事長として、本校の教育理念を教職員全体に浸透させていくことに今後も力を尽くしていきたいと考えています。

令和 7 年12 月 10 日

学校法人 有明学園

理事長 井手 秀孝